

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

地域名

今治市玉川町

人権課題

子供、女性、高齢者、障害者、同和問題、ハンセン病患者等、性的指向・性自認

目標・人権教育の
ねらい

・子どもが真ん中で地域がつながる人権教育の推進
 ・人権学習の機会を学校・保育所、家庭、地域などで充実させるとともに、就学前から高等学校までを見通した系統的な人権教育カリキュラムを作成・活用し、人権尊重の意識の芽生えを切れ目なく支援する総合的な人権教育を推進する。

各組織の動き・役割等

人権教育総合推進会議→指導計画の整備

愛媛県教育委員会

今治市教育委員会

今治市人権教育協議会

推進協力校4校・協力保育所2所

各校PTA・学校運営協議会

玉川地域教育課・公民館

うずしお会

玉川サイコー

研究報告書の作成・配布 研究授業(公開授業含)・研修報告会の実施
 ワーキンググループ会議

(社会教育部会) 学校・家庭・地域が一体となった人権・同和教育について協議

(学校教育部会) 保～高を貫く系統的な人権・同和教育について協議

ワーキンググループ会議として、各校の児童生徒や保護者、地域の方々を対象にアンケートを実施し、地域の課題を把握し、情報共有を行った。

学校教育部会では各校の人権・同和教育主任を中心に、各校の人権に関する年間計画を見直し、地域とのつながりや学校間交流に関する年間計画を作成した。
 鴨部小学校と九和小学校は、少年自然の家と一緒にいたり、合同で授業を行ったりして、児童の交流を図った。
 各学校が行った人権・同和教育参観日は、地域の方々にも案内し、学校の取組を見ていただいた。また、他校の教職員も参加し、自校の取組の参考にした。

社会教育部会では、各学校の要望を聞いて、交流に積極的に取り組んだ。
 小学生を対象に、地域の良さを改めて感じる地域探検をおこなったり、中学生・高校生を対象に県外へのフィールドワーク(徳島木偶人形館等)を計画・実施した。

校種間連携の
概要

・学校教育部会を中心に校種間で積極的な話し合いの場をもち、子どもを真ん中にどのような連携ができるか協議を重ね、各事業に取り組んだ。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

地域・関係機関との連携の概要

・ワーキンググループ会議及び人権教育総合推進会議において、人権教育の進んだまちづくりの充実について協議を行った。

事業成果

・知識的側面:「いじめは絶対許されない」

「いじめは絶対に許されない」と考える児童生徒は、約75%であった。「いじめられる側にも原因がある」という児童生徒が約10%いたが、学校教育部会等で情報交換や研修を通して、児童生徒の実態に応じた人権教育を積み重ねることで、「いじめてよい理由などない」ことが理解されるようになってきた。

・価値・態度的側面:「自分のことが好きですか」

「自分のことが好き」と答えた児童生徒は、約75%であった。自分に自信が持てない児童生徒に対して教職員が情報を共有して関わり続けたり、地域の機関や団体が計画した取組に参加したりすることで、様々な人が自分に関わっていることを自覚し、自尊感情の高まりが見られるようになった。

・技能的側面:「周りの人を大切にしていますか」

「周りの人を大切にしている」と答えた児童生徒は、約95%であった。友だちの思いに寄り添い話を最後まで聞くことや、相手の立場に立って物事を考えることについて、日々の教育活動全般を通して児童生徒に伝えることで、周りの人を大切にする気持ちが一層高まった。また、地域とのつながりを通して、多くの方々が支えてくださっていることに感謝し、地域の方々の思いを大切にしようとする気持ちをさらに深めた。